



## 『樹影』

佐多稲子

佐多稲子は長崎市に生まれ、十一歳で上京するまでの少女時代を長崎で過ごした。

『樹影』は、妻子ある日本画家の男と華僑の女の愛と死を、原爆という長崎の傷痕とともに描いた作品である。野間文芸賞受賞作。『私の長崎地図』は、モデルと言われる池野清による装幀である。

生家に程近い諏訪公園には、昭和六十年、地元の有志によって「樹影の碑」が建立された。碑文には冒頭の次の文章が刻まれている。

あの人たちは何も語らなかつただろうか。あの人たちは本当に何も語らなかつただろうか。あの人たちはたしかに饒舌ではなかつた。それはあの人たちの人柄に先ずよっていた。

この碑は、悲しい出生の後、幼くして故郷を離れ、二度の結婚と離婚など人生の曲折を味わってきた佐多にとって、「ふるさと」へ回帰する場所となった。